

とん しゃん とん ちー  
**同声 同気**  
web版

編集・制作：中国帰国者定着促進センター  
教務部講師会  
発行者：中国帰国者定着促進センター

◎目次

**行政・施策**

☆援護基金から

- ・〈平成27年度〉介護関連資格取得援助事業のご案内

**研修会報告**

- ・年少者の日本語教育の今とこれから 「特別の教育課程」の現状と課題

**とん・とんインフォメーション**

- ・近刊紹介『日本国最後の帰還兵 深谷義治とその家族』
- ・「介護に係る研修会」用資料についてのお知らせ（追加情報）
- ・中国語の対応が可能な介護事業所一覧
- ・新田 樹 写真展「サハリン」
- ・ニュース記事から 2014.12.12-2015.3.1

**遠隔学習インフォメーション**

- ・H27年度上期「遠隔学習課程（通信教育）」募集要項完成！
- ・入門日本語文法文型Bコース（ロシア語版）
- ・N2コース受講者から合格報告！

\*\*\*\*\*

**行政・施策**

★援護基金から

**〈平成27年度〉介護関連資格取得援助事業のご案内**

中国帰国者、二世・三世並びにその配偶者が介護関連資格の取得を目指すために受講する介護職員初任者研修課程養成講座等の受講料の一部を援助しています。

平成27年度は援助額が8割（上限8万円）に増額し、対象資格に福祉住環境コーディネータも加わりました。なお、ブロック別定数制となりました。詳しくはホームページの「援助のしおり」をご覧ください。

HP：<http://www.engokikin.or.jp/business/tabid/59/Default.aspx>

お問い合わせ：03-3501-1050



## 近刊紹介 『日本国最後の帰還兵 深谷義治とその家族』

(深谷敏雄著、集英社刊、1800 円(税抜))

各処で評判になっているのでご存じの方も多いたとは思いますが、帰国邦人の二世の手になる日中関係史の隠れた一面を表した一書です。

本書の主人公である深谷義治氏は元憲兵で、戦中、中国でスパイ工作に従事していました。戦後も「任務続行」の特命を受け、中国人として上海に潜伏し続けましたが、1958 年中国当局に逮捕されます。この間、戦中に工作上の必要で結婚した上海出身の妻との間に 3 男 1 女をもうけて家庭を築いていました。その後 20 年以上にわたる投獄の日々を経、恩赦を得て 1978 年に一家で日本に帰国します。

本書は、死んでしまっても不思議はないほどの過酷な獄中生活と、その間「反革命分子」の家族が堪え忍ばざるを得なかった極貧の日々、そして夢にまで見た祖国日本でも続いた苦労を著者の手記に義治氏の獄中記を交えて描き出しています。一家の味わった辛苦は想像を絶するものでしたが、それを支えた義治氏の使命感そして妻・子が夫・父に捧げた家族愛もまたあり得ない深さでした。本書冒頭に帰国直後の一家談笑の写真が挿入されていますが、その印象が読後には全く違った重みをもって現れます。

一口に中国帰国者といっても生育歴も戦中戦後の立場も、背景事情は様々です。本書が今まで日の当たってこなかったそれらの人たちの生きてきた歴史の「語り直し」のきっかけにもなることを願います。何語でもいいから、当事者の記憶をたどれるうちに記録を残してほしいと、戦後 70 周年となる今年に本書が世に出た意義を改めて思いました。(an)



自治体の皆様／帰国者支援の皆様へ  
「介護に係る研修会」用資料についてのお知らせ（追加情報）

NL 第 58 号でご紹介した「介護に係る研修会」用資料に、新たに作成した資料が加わりました。

	タイトル	内容	日本語	中国語	日中対訳	ロシア語	日露対訳
(1)⑧	『認知症ってどうい う病気？—認知症の 基礎知識—』22 頁	身近な病気認知症についての、原因と症状、接 し方、早期発見の重要性等基礎知識をまとめた パンフレット。	/	/	●	/	●
(1)⑨	『認知症ってどうい う病気？—認知症の 基礎知識—』（簡略 版) 13 頁	⑧を帰国者とその家族向けに簡潔にしたもの。 帰国者にこれを示しながら説明するときに使 用。	/	●	/	●	/
(1)⑩	⑧の別冊付録『認知 症を理解する』50 頁	『こんなときどうする？チャートでわかる認知 症介護』（鎌田ケイ子著）を中／露に翻訳したも の。認知症の人を介護する家族のために書かれ た本だが、支援者が、認知症についてより深く 理解するのに格好の読み物となっている。	/	●	/	●	/
(2)⑤	『帰国者事情・サハ リン文化事情あれ これ』8 頁	サハリン帰国者事情、帰国者の思い、サハリン の生活習慣文化、「介護」観などについてまとめ たパンフレット。	●	/	/	●	/
(2)④ iv	介護施設での行事等 ポスター16 枚	誕生日や季節の行事等介護施設のイベント案内 用ちらし。イラスト付きの中国語による案内。	/	/	●	/	●

※ (1) ⑩の日本語版は市販本です。当センターで貸し出しもできます。

※58 号で紹介した資料にも、中国語/ロシア語訳の加わったものがあります。最新情報はホームページでご  
確認ください。

<http://www.kikokusha-center.or.jp/bunka/siryou/kaigosiryou.html>

資料についてのお問い合わせは、[tongtong@kikokusha-center.or.jp](mailto:tongtong@kikokusha-center.or.jp)（田中）まで



## 中国語の対応が可能な介護事業所一覧

厚労省では、中国語による介護サービスの提供等を希望される中国残留邦人等の方々への情報提供のため、中国語の対応が可能な介護事業所をまとめました。全国 20 都道府県 118 件の情報を載せています。(平成 26 年 12 月 16 日時点)

※北海道(2) 宮城(3) 山形(15) 茨城(1) 群馬(1) 埼玉(10) 千葉(6) 東京(16) 神奈川(8) 富山(2) 山梨(5) 長野(11) 京都(6) 大阪(20) 兵庫(5) 島根(1) 岡山(1) 広島(1) 熊本(1) 大分(3)

【厚労省 中国語の対応が可能な介護事業所 [検索](#)】

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12100000-Shakaiengokyoku-Engo/0000070470.pdf>

○問い合わせ先：中国残留邦人等支援室地域支援係 (03-5253-1111 (内線 3463・3468))

---

## 新田 樹 写真展「サハリン」

銀座ニコンサロン (03-5537-1469)

4/22 (水) ~5/5 (火) 10:30~18:30 (最終日は 15:00 まで)、会期中無休

サハリンで生きる日本人の生活を長年、撮影している新田樹 (にった たつる) さんの写真展が東京・銀座で行われます。

[http://www.nikon-image.com/activity/salon/exhibition/2015/05\\_ginza.html](http://www.nikon-image.com/activity/salon/exhibition/2015/05_ginza.html)

---

## ニュース記事から 2014. 12. 12~2015. 3. 1

2015/03/01 中国残留帰国者ら、認知症の高齢者に対応 飯田にデイサービス開所／長野



- |                     |         |
|---------------------|---------|
| 【17】 「早く帰った方がいいですよ」 | [忠告・意見] |
| 【18】 「お土産をもらいました」   | [授受]    |
| 【19】 「兄は英語が話せます」    | [能力・可能] |
| 【20】 「泥棒にお金を盗まれました」 | [受身形]   |

※当センターHP からサンプルが見られます。Internet Explorer で音声がかかります。  
[http://www.kikokusha-center.or.jp/tokorozawa/enkaku/ru/course\\_ru.jp.htm#13](http://www.kikokusha-center.or.jp/tokorozawa/enkaku/ru/course_ru.jp.htm#13)

---

## N2 コース受講者から合格報告！

「先生方のお陰で日本語能力試験N2 合格しました。合格できるとは夢にも思いませんでした。とても嬉しくてとても感謝しています。読解問題集は、本屋にあるものまで教えてくださって本当に助かりました。試験後いろいろ反省しております。(試験では) 時間が足りなくて読解文は半分しか解答しないままで時間切れでした。悔しいと言うより自分自身の読書のスピードが遅いのが原因でした。もしコツがあれば、是非教えてください。次はN1に挑戦したいと思っております。(二世40代)」

※当センターホームページに教材のサンプルがあります。

[http://www.kikokusha-center.or.jp/tokorozawa/enkaku/jp/1410course\\_jp.htm#25](http://www.kikokusha-center.or.jp/tokorozawa/enkaku/jp/1410course_jp.htm#25)

\*\*\*\*\*

お知らせ

★web 版『同声・同気』は、情報掲載時に、その内容をメールにてお知らせすることができますので、ご希望の方は、以下の宛先まで、①お名前(団体窓口者の方は団体名も)と②ご自身のメールアドレスをお送りください。

宛先: [tongtong@kikokusha-center.or.jp](mailto:tongtong@kikokusha-center.or.jp)

(お問い合わせは 電話 04-2993-1660 FAX 04-2991-1689)